

# インスリンの管理方法

インスリンは膵臓でつくられるホルモンで、たんぱく質が主体となっています。そのため過度の高温や低温になると変性して立体構造が変化し、薬理作用が弱まってしまうおそれがあります。

インスリンの効果を得るためにはきちんとした管理が必要です。

## <保管法>

未使用のものは冷蔵庫で保管しましょう。

凍結を避けるため冷却風の当たらないドアポケットが最適です。

## <使用開始した製剤の使用期限>

使用開始したインスリンは室温で保管することができます。

インスリンや自己血糖測定器は、高温や直射日光で変化してしまうので、気温が高い日の外出は保冷バックに入れるようにしましょう。

製剤によって開封後の使用可能日数が違うので以下の表を参考に、使用可能日数が経過してしまったものは、薬液が残っていても廃棄しましょう。

### 超即効型・即効型インスリン製剤

アピドラ注ソロスター	4週間	25±2℃以下
インスリンリスプロ BS ソロスター	4週間	30℃以下
インスリンアスパルト BS ソロスター	4週間	30℃以下
ノボラピッド注フレックスタッチ	4週間	30℃以下
ヒューマログ注ミリオペン	4週間	30℃以下
ノボリンR注フレックスペン	6週間	30℃以下

### 混合型インスリン製剤

ノボラピッド30ミックス注フレックスペン	4週間	30℃以下
ノボラピッド50ミックス注フレックスペン	4週間	30℃以下
ノボリン30R注フレックスペン	6週間	30℃以下
ヒューマログミックス50注ミリオペン	4週間	30℃以下
ライゾデグ配合注フレックスタッチ	4週間	30℃以下

### 持効型インスリン製剤

インスリンゲラルギンBS注ミリオペン	4週間	30℃以下
トリーバ注フレックスタッチ	8週間	30℃以下
ランタス注ソロスター	4週間	25±2℃以下
ランタス XR 注ソロスター	6週間	25±2℃以下
レベミル注フレックスペン	6週間	30℃以下

### <インスリン注射時の確認事項>

インスリンを使用する際は以下の異常がないか確認しましょう。

- ・ゴム栓がふくらんで飛び出ている
- ・大きな気泡が薬液内にある
- ・薬液が変色している（血液の混入を防ぐため針はしっかり取り付け、針を抜くまでは注入ボタンは押したままにしましょう）
- ・懸濁剤を混和しても均一に白濁しない

異常がみられた場合は使用するのをやめましょう。

### <寒い時の注意点>

インスリンは一度でも凍ってしまうと薬液が変化してしまうので、冬の寒い日はタオルに包んでもち歩くなど工夫をしましょう。

凍らせてしまったかなと疑問に思ったときは以下の変化がみられないか確認しましょう。

- ・カートリッジ内に小豆より大きな空気がある
- ・注入ボタンがいつもより重い
- ・カートリッジのガラスにヒビが入ったり、ゴム栓が膨張・破裂している
- ・懸濁剤の沈殿がいつもより速い

変化が見られた場合は使用しないようにしましょう。